

「BRAIN and NERVE」第75巻 総目次

2023 年（第 1～12 号）

頁数は通巻数、（ ）内は号数

【特 集】

〈よく出会う不随意運動を知る〉

ジストニア、特に職業性ジストニア

……………宮本 亮介・牟礼 英生・山脇 健盛・ 5(1)

痙攣性発声障害……………渡嘉敷亮二・ 15(1)

口部ジスキネジア、遅発性ジスキネジア

……………向井 洋平・ 23(1)

振戦……………小林 正人・ 37(1)

ミオクロヌス、舞踏運動、パリズム

……………小林 勝哉・池田 昭夫・ 45(1)

機能性（心因性）運動異常症

—— 機能性不随意運動症を中心に

……………川添 僚也・沖山 亮一・高橋 一司・ 59(1)

〈多系統萎縮症の新診断基準とこれからの診療〉

Gilman 分類 second consensus statement の問題点

……………渡辺 宏久・長尾龍之介

水谷 泰彰・伊藤 瑞規・ 101(2)

Movement Disorder Society による多系統萎縮症診断基準

—— 改訂のポイントと注意点 ……下畑 享良・ 109(2)

New MDS criteria の注目点 —— 全体像および遺伝学的観点

から……………辻 省次・ 117(2)

New MDS criteria の注目点 —— 自律神経障害の観点から

……………榊原 隆次・澤井 摂・尾形 剛・ 123(2)

New MDS criteria の注目点 —— 病理学の観点から

……………三木 康生・若林 孝一・ 133(2)

New MDS criteria の日常診療・臨床試験における使用方法

……………松島 理明・矢部 一郎・ 143(2)

New MDS criteria 時代の新しい治療

……………長谷川隆文・ 149(2)

〈慢性疼痛〉

イントロダクション —— 痛みの理解を深めるために

……………野口 光一・ 197(3)

慢性疼痛とそれととりまく痛みの歴史や概念・定義

……………牛田 享宏・ 201(3)

慢性疼痛とシナプス再編 —— グリア細胞制御による治療法

を目指して……………鍋倉 淳一・竹田 育子・ 207(3)

慢性疼痛と筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群

……………佐藤和貴郎・ 217(3)

慢性疼痛の内科治療……………野寺 裕之・ 227(3)

慢性疼痛診療におけるペインクリニックの役割

……………北原 雅樹・ 235(3)

心理的な痛みの機序……………梅田 聡・ 243(3)

〈All About Epilepsy〉

てんかんの診断・分類 —— てんかん診療における思考過程

……………川口 典彦・寺田 清人・ 291(4)

小児のてんかん……………小國 弘量・ 297(4)

てんかんをもつ女性の妊娠・出産

……………田久保陽司・根本 隆洋・渡辺 雅子・ 303(4)

自動車運転とてんかん

……………渡邊さつき・松尾 幸治・ 307(4)

高齢者のてんかん —— 臨床と最近の知見

……………曾根 大地・ 311(4)

症候性てんかん……………齋藤 正範・ 317(4)

てんかん性健忘……………鶴飼 克行・ 323(4)

一般診療における心因性非てんかん発作

……………尾久 守侑・ 329(4)

てんかん原性脳病変の外科病理 —— 皮質異形成と腫瘍

……………柿田 明美・ 335(4)

難治性てんかんとその対応……………岩崎 真樹・ 341(4)

てんかんの薬物療法……………神 一敬・ 347(4)

てんかんに対する外科的アプローチ

……………井林 賢志・川合 謙介・ 353(4)

てんかん患者とその家族が日常生活において求めること

……………林 泰臣・ 359(4)

〈神経・精神領域の薬剤ハンドブック〉

〈総論〉

神経領域の薬剤の現状を俯瞰する —— 真の Decade of Brain

の到来か……………漆谷 真・ 411(5)

精神領域の薬剤の現状……………鈴木 健文・ 418(5)

神経・精神領域の薬剤相互作用

……………長谷 達・古郡 規雄・下田 和孝・ 421(5)

脳神経内科領域における開発途上の薬剤

……………関島 良樹・ 427(5)

脳神経外科領域における開発途上の薬剤

.....上羽 哲也・433(5)	
精神科領域における開発途上の薬剤	
.....内田 裕之・437(5)	
〈各論〉	
パーキンソン病治療薬	
.....齊藤 勇二・高橋 一司・441(5)	
脳卒中治療薬.....永田栄一郎・450(5)	
抗てんかん薬.....吉野 相英・456(5)	
抗認知症薬（抗アルツハイマー病薬）	
.....山田 正仁・464(5)	
片頭痛治療薬.....菊井 祥二・竹島多賀夫・470(5)	
自己免疫性脳炎治療薬.....亀井 聡・479(5)	
多発性硬化症治療薬 — 治療戦略と疾患修飾薬	
.....茂木 晴彦・北川 賢・中原 仁・485(5)	
視神経脊髄炎治療薬.....中島 一郎・493(5)	
脊髄小脳変性症治療薬	
.....松島 理明・矢部 一郎・498(5)	
筋萎縮性側索硬化症治療薬.....荻野美恵子・503(5)	
脊髄性筋萎縮症治療薬.....石山 昭彦・507(5)	
特発性炎症性筋疾患治療薬.....富満 弘之・511(5)	
遺伝性筋疾患治療薬.....大矢 寧・517(5)	
ミトコンドリア脳筋症治療薬.....砂田 芳秀・523(5)	
重症筋無力症治療薬.....村井 弘之・527(5)	
炎症性ニューロパチー治療薬	
.....西原 秀昭・神田 隆・533(5)	
遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシス治療薬	
.....植田 光晴・539(5)	
ジストニア・ミオクローヌス・コレア治療薬	
.....長谷川一子・542(5)	
本態性振戦治療薬.....宮本 勝一・伊東 秀文・549(5)	
遅発性ジスキネジア治療薬	
.....楠戸 恵介・竹内 啓善・553(5)	
レストレスレッグス症候群治療薬	
.....鈴木 圭輔・土屋 智裕・平田 幸一・557(5)	
脳腫瘍治療薬.....北村 洋平・戸田 正博・561(5)	
神経障害性疼痛治療薬	
.....猪狩 裕紀・牛田 享宏・567(5)	
抗うつ薬.....渡邊衡一郎・573(5)	
抗精神病薬（統合失調症治療薬）	
.....山田 恒・橋本 亮太・579(5)	
抗不安薬.....村岡 寛之・稲田 健・585(5)	
睡眠薬.....加藤 隆郎・小曾根基裕・591(5)	
精神刺激薬（中枢神経刺激薬）	
.....福元進太郎・今成 英司	
渡真利真治・東 琢磨・小坂 浩隆・599(5)	

気分安定薬（双極性障害治療薬）.....鈴木 映二・605(5)	
アルコール依存症治療薬.....松下 幸生・613(5)	
排尿障害治療薬	
.....榊原 隆次・澤井 摂・尾形 剛・623(5)	
起立性低血圧治療薬.....朝比奈正人・631(5)	
神経領域の漢方薬.....村松 慎一・637(5)	
精神科領域の漢方薬.....坪井 貴嗣・641(5)	
〈特定の場面での使い方〉	
周産期における向精神薬の使い方	
—— 胎児、乳児へのリスクとベネフィット	
.....和田 周平・小笠原一能・尾崎 紀夫・645(5)	
小児神経疾患に対する薬剤の使い方	
.....高橋 孝雄・三橋 隆行・652(5)	
高齢者の薬剤の使い方.....秋下 雅弘・658(5)	
薬剤と自動車運転.....松尾 幸治・663(5)	
〈Antibody Update 2023 Part 1 中枢編〉	
神経系自己抗体産生のメカニズムとその病的意義	
.....松尾 欣哉・竹下 幸男・687(6)	
神経細胞表面抗体と自己免疫性脳炎 Update	
.....原 誠・中嶋 秀人・695(6)	
視神経脊髄炎関連疾患	
.....飯田紘太郎・磯部 紀子・705(6)	
MOG 抗体関連疾患.....三須 建郎・711(6)	
VGKC 複合体関連疾患 — 抗 LGI1 脳炎, 抗 Caspr2 脳炎	
.....渡邊 修・721(6)	
自己免疫性パーキンソニズムおよび関連疾患	
.....木村 暁夫・大野 陽哉・下畑 享良・729(6)	
自己免疫性小脳性運動失調症.....三苦 博・737(6)	
スティッフパーソン症候群	
.....松井 尚子・田中 恵子・和泉 唯信・749(6)	
傍腫瘍性神経症候群.....田中 恵子・755(6)	
統合失調症における自己抗体病態	
.....塩飽 裕紀・高橋 英彦・763(6)	
〈Antibody Update 2023 Part 2 末梢編〉	
【鼎談】Antibody Update 10 年 — 自己抗体は脳神経内科の臨床をどのように変えたか	
.....藤原 一男・海田 賢一・神田 隆・797(7)	
ギラン・バレー症候群 — 日常診療での自己抗体の意義	
.....古賀 道明・807(7)	
慢性自己免疫性脱髄性ニューロパチー	
.....緒方 英紀・813(7)	
自己免疫性自律神経節障害 — 「10 の課題」を解くために	
.....中根 俊成・821(7)	
重症筋無力症と自己抗体.....鶴沢 顕之・831(7)	
ランバート・イートン筋無力症候群 — 病原性自己抗体の	

臨床的意義……………本村 政勝・入岡 隆・ 837(7)	
筋炎関連自己抗体(1) — 皮膚筋炎	
……………藤本 学・ 847(7)	
筋炎関連自己抗体(2) — 免疫介在性壊死性ミオパシー	
……………富満 弘之・ 855(7)	
筋炎関連自己抗体(3) — 抗合成酵素症候群関連筋炎	
……………漆葉 章典・ 863(7)	
筋炎関連自己抗体(4) — 封入体筋炎	
……………山下 賢・ 869(7)	
〈アルツハイマー病は本当に早期発見できるのか〉	
病歴聴取と身体診察だけで前臨床期のアルツハイマー病を	
どれほど疑えるか……………福武 敏夫・ 905(8)	
血液／脳脊髄液マーカーはどれくらい役に立つか	
……………徳田 隆彦・ 915(8)	
脳 MRI はどれくらい役に立つか	
……………安池 政志・ 赤澤健太郎・ 山田 恵・ 923(8)	
核医学診断法はどれくらい役に立つか	
……………石井 賢二・ 933(8)	
嗅覚検査はどれくらい役に立つか……………武田 篤・ 943(8)	
神経心理学的検査はどれくらい役に立つか	
……………緑川 晶・ 949(8)	
〈妊娠と神経疾患〉	
妊娠・授乳中の薬剤動態と安全性評価	
……………藤岡 泉・ 村島 温子・ 993(9)	
妊娠とてんかん……………木村 唯子・ 岩崎 真樹・ 999(9)	
妊娠と脱髄疾患およびその類似疾患	
……………清水 優子・ 1005(9)	
妊娠と脳血管疾患……………平野 照之・ 1015(9)	
妊娠と頭痛……………清水 利彦・ 1023(9)	
妊娠と神経筋疾患……………水地 智基・ 三澤 園子・ 1035(9)	
妊産婦と向精神薬	
……………寺嶋 彰子・ 小笠原一能・ 尾崎 紀夫・ 1043(9)	
着床前診断と脳神経疾患	
……………山田晋一郎・ 勝野 雅央・ 1051(9)	
〈メタバースへの招待〉	
【対談】メタバースが変える神経科学の未来	
……………岡嶋 裕史・ 三村 将・ 1093(10)	
メタバース×医療の可能性とそのガバナンス	
……………藤田 卓仙・ 1099(10)	
メタバースによる新しい教育……………雨宮 智浩・ 1107(10)	
メディカル・メタバースを活用したニューヘルスケアへの	
挑戦	
……………牧野 裕一・ 小林 智久・ 今野 大成	
佐々木栄二・ 太田 進・ 先崎 心智・ 1115(10)	
アバターコミュニケーションの精神科医療応用 — 生物・	

心理・社会モデルから見た考察……………吉岡 鉦平・ 1121(10)	
脳神経外科領域のメタバースと Extended Reality の臨床活	
用 — 空間画像解析・遠隔手術支援・追体験型修練	
……………末吉 巧弥・ 杉本 真樹・ 1129(10)	
超高齢社会における Virtual Reality の活用	
……………登嶋 健太・ 1135(10)	
〈アロスタシス — ホメオスタシスを越えて〉	
アロスタシスとホメオスタシス — 神経生理学の観点から	
見た動的適応系……………虫明 元・ 1189(11)	
内受容感覚・意思決定・感情の統合 — 予測的処理として	
のアロスタシス……………大平 英樹・ 1197(11)	
神経内分泌からみたアロスタシスとレジリエンス	
……………高柳 友紀・ 尾仲 達史・ 1205(11)	
IoT 計測によるアロスタティック負荷の検知と応用	
……………竹内 皓紀・ 岸 哲史	
中村 亨・ 吉内 一浩・ 山本 義春・ 1211(11)	
ロボットによる社会的アロスタシスの調節	
……………佐藤 弥・ 神原 誠之・ 1219(11)	
慢性疼痛とアロスタシス — グリア細胞の役割	
……………津田 誠・ 1225(11)	
心拍変動とアロスタシス……………湯田 恵美・ 1231(11)	
アロスタシス機構の設計原理 — 自由エネルギー原理	
……………乾 敏郎・ 1239(11)	
内受容感覚を媒介とするアロスタシスと感情	
……………寺澤 悠理・ 是木 明宏・ 1245(11)	
内受容感覚とアロスタシスからみた精神疾患	
……………是木 明宏・ 寺澤 悠理・ 1251(11)	
〈アガサ・クリスティーと神経毒〉	
ストリキニーネ『スタイルズ荘の怪事件』 — グリシン作	
動性シナプス伝達の遮断……………渡辺 雅彦・ 1285(12)	
コカイン『戦勝記念舞踏会事件』……………詫間 章俊・ 1289(12)	
ゲルセミウム『ビッグ 4』……………船山 信次・ 1293(12)	
ベロナル『エッジウェア卿の死』 — 鎮静と依存の両刃	
の剣……………虫明 元・ 1297(12)	
ニコチンと殺虫剤・たばこ『三幕の殺人』	
……………山脇 健盛・ 1301(12)	
砒素中毒『殺人は容易だ』……………神田 隆・ 1305(12)	
シアン化合物『そして誰もいなくなった』, 『忘れぬ死』	
……………唐木 英明・ 1309(12)	
モルヒネとアボモルヒネ『杉の柩』	
……………尾久 守侑・ 1315(12)	
コニイン『五匹の子豚』……………酒井 邦嘉・ 1319(12)	
ベラドンナ (アトロピン)『ヘラクレスの冒険』	
……………古谷 博和・ 1325(12)	
タキシム『ポケットにライ麦を』 — カルシウムチャネル・	

ナトリウムチャンネル阻害剤……………古泉 秀夫・1331(12)
トリカブト『パディントン発4時50分』— ナトリウム
チャンネルの持続的な活性化……………小原佐衣子・1335(12)
タリウム『蒼ざめた馬』— いかに診断し治療するか
……………下畑 享良・1339(12)
エゼリン (エセリン)『ねじれた家』、『カーテン』
……………高尾 昌樹・1343(12)

(総説)

サイコオンコロジー — 国内初の遺族ケアガイドライン
……………松岡 弘道・77(1)
カルシウムイメージングによる神経活動の計測
……………坂本 雅行・159(2)
神経系における幹細胞治療……………新妻 邦泰・167(2)
社会的孤立・孤独と親和性社会行動の神経基盤
……………福光 甘斎・黒田 公美・263(3)
高次脳機能の理解に向けた次世代ケモジェネティクス法の
開発……………松岡 佑真・柏 俊太朗
堂浦 智裕・清中 茂樹・367(4)
てんかん患者の精神症状とその対応 — 新規抗てんかん発
作薬の有害事象としての精神症状の特徴
……………兼本 浩祐・西田 拓司・長谷川直哉・375(4)
慢性外傷性脳症の生前画像診断に向けての取組み
……………宮田 真里・高畑 圭輔・769(6)
組織学的アプローチからのALS診断バイオマーカー —
筋病理と筋内神経束へのリン酸化TDP-43発現
……………倉重 毅志・877(7)
オキシトシン可視化手法の開発と動態解析 — オキシトシ
ンの「見える化」とそこから見えてきたこと
……………塗谷 睦生・957(8)
パーキンソン病の病態進展と甲状腺
……………齊木 臣二・965(8)
「社会的苦しみ」としての戦争トラウマ
……………中村 江里・1059(9)
未診断疾患イニシアチブのこれまでの成果と将来像
……………鈴木 寿人・1065(9)
設計可能な抗アミロイド化合物を用いた、がん、2型糖尿
病、神経変性疾患に対する疾患横断的な戦略
……………高松 芳樹・橋本 款・1143(10)
縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチーを対象としたアセノイ
ラミン酸の有効性
……………青木 正志・井泉瑠美子・鈴木 直輝・1149(10)
大脳前頭葉の階層的意思決定機構……………松坂 義哉・1259(11)
筋萎縮性側索硬化症(ALS)のリハビリテーション医療と
ALSクリニック
……………海老原 覚・勝又 泰紀・朴 依真・1349(12)

精神展開剤の過去・現在・これから
……………内田 裕之・1355(12)

(Review)

Allesthesia……………Mitsuru Kawamura・255(3)

(原著)

マンガの文脈に基づいて色を想起する際の脳活動
……………室谷 悠斗・酒井 邦嘉・173(2)

(Original Article)

The Relationship between the Autistic Traits and Everyday
Memory Processing in Adults with Autism Spectrum Disorder
and Healthy Adults……………Shuhei Kaneko
Yoshiyuki Hirano・Daisuke Matsuzawa
Arata Oiji・Katsutoshi Tanaka・1361(12)

(症例報告)

脳脊髄病変を反復し髄液細胞の遺伝子解析により Bing-
Neel 症候群と診断した1例……………大岩 慧
白井 慎一・阿部 恵・大東 寛幸
岩田 育子・大塚 拓也・矢部 一郎・69(1)
延髄梗塞を合併した帯状疱疹性脊髄炎の1例
……………星野 俊・伊藤 葵
清水 高弘・秋山 久尚・山野 嘉久・269(3)
脊髄空洞症を呈した Currarino 症候群の一手術例
……………根本 卓也
落合淳一郎・奥 真一朗・山本 悠介
平出 智裕・金井 理恵・日高 敏和
堀江 信貴・赤井 卓也・井川 房夫・971(8)
高齢者キアリ I 型奇形の1手術例
……………佐竹 洸亮・伊藤美以子
本間 博・園田 順彦・1071(9)
筋萎縮性側索硬化症に意味性認知症を合併した症例 — 言
語症状と書字障害の検討
……………高木 早希・大門正太郎
井上 桂輔・梅田 実穂・小林 禅・1155(10)
ペムブロリズマブの最終投与から17週後に脳炎を発症
し、自然軽快した1例
……………島 智秋・古田可奈子
山下 魁理・立石 洋平・辻野 彰・1163(10)

(LETTERS)

王子 聡「『ほんとうのジャクリース・デュ・プレ』— 天才
チェリストと多発性硬化症」(Brain Nerve 74: 1395-1398,
2022) への疑義……………目崎 高広・1176(10)

(連載)

〈スペシャリストが薦める読んでおくべき名著
— ニューロサイエンスを志す人のために〉
(5)脳神経外科医としての礎を築いてくれた書籍

.....川俣 貴一・1174(10)	(6)レム睡眠行動異常症とレビー小体型認知症
〈医師国家試験から語る精神・神経疾患〉	長田 高志・779(6)
(1)ファブリー病 オーバービュー	(7)双極性障害を診わせる.....澤田 恭助・889(7)
.....河野 優・85(1)	(8)抗うつ薬の情動面での副作用.....菊地 俊暁・977(8)
(2)せん妄へのアプローチ.....金井 光康・183(2)	(9)フィッシャー症候群の診断根拠を述べることはできま すか?.....古賀 道明・1077(9)
(3)依存症とは何か ― 身体依存と精神依存	(10)ビタミン・微量元素欠乏.....山脇 健盛・1169(10)
.....松本 俊彦・275(3)	(11)目に見えない脅威 ― 酸素欠乏
(4)境界性パーソナリティ障害.....白波瀬丈一郎・391(4)	藤田 眞幸・1267(11)
(5)統合失調症の診断学	(12)筋萎縮性側索硬化症(ALS).....荻野美恵子・1367(12)
.....水谷 真志・高尾 昌樹・671(5)	